

研究課題名	大腿膝窩動脈病変において、バルーン拡張によって起こる形態的变化-IB-IVUS を用いた解析-
研究の意義・目的	<p>大腿膝窩動脈病変を有する下肢閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療において、薬剤塗布バルーンを用いた治療が有用である事が知られていますが、その使用においては上手く病変を拡張する事（解離を引き起こさず、また十分な内腔を確保する事）が必要です。しかし、バルーン拡張によって病変部のプラークにどういった変化が実際に起こっているのかは、未だ明らかではありません。本研究は、カテーテル治療時に日常診療範囲内で使用している血管内超音波の画像を、IB（Integrated backscatter）法を用いて解析し、プラークにどのような変化が起こっているのかを明らかとする事を目的としています。</p> <p>本研究を行う事で、薬剤塗布バルーンを用いた治療に適した病変を早期に同定し、また薬剤塗布バルーンが持つ本来の性能を最大限発揮するための手法も明らかとなる可能性があります。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ~ 2024年12月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2021年4月から2022年11月の期間中に、大阪公立大学医学部附属病院（旧：大阪市立大学医学部附属病院）において、大腿膝窩動脈病変に対してカテーテル治療を行い、薬剤塗布バルーンを用いた治療を行った患者様の内、治療時に20歳以上であり、また治療時に血管内超音波を使用し、病変評価を行った患者様。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>①患者基本情報：年齢、性別、患側（左右）、身長、体重、歩行状況、症状（Rutherford分類）、背景疾患（高血圧、糖尿病、脂質異常症、維持透析、冠動脈疾患、脳血管疾患、慢性心不全、心房細動、慢性閉塞性肺疾患、悪性腫瘍、喫煙歴、ABI値）</p> <p>②血液検査結果：血清クレアチニン、アルブミン、ヘモグロビン、血小板数、ヘモグロビンA1c、LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪</p> <p>③投薬内容：抗血栓薬、スタチン、エゼチミブ、インスリン、インスリン以外の糖尿病治療薬</p> <p>④画像（血管造影、血管内超音波）</p>
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院循環器内科のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 循環器内科学 （担当者氏名）島田 健晋 電話番号：(06) 6645-3801